

セゾンマルチシリーズ 据付説明書

FDRP 22HKXD4 ~ 360HKXD4

PJR012D019

適用機種	22H, 28H, 36H
------	---------------

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
 電気配線（室内）およびリモコンの取付方法は、室内ユニット付属の説明書をご覧ください。
 室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書
 をご覧ください。
 リモコンは別売りです。

お願い ○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特
 にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。
 ○長時間使用しない場合は、電源スイッチを切るようにお客様にご指導ください。

工事完了後、これだけは再チェック願います。		
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水滴れ	
ドレンはスムーズに繋がれていますか。	水滴れ	
電源電圧は本機に表示の値と同じですか。	運転不良・焼損	
誤配線、誤配管はありませんか。	運転不良・焼損	
アース工事はされていますか。	高電圧危険	
電線の太さは仕様と一致していますか。	運転不良・焼損	
室内外ユニットの周辺・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

1 据付の前に

○据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
 ○工事計画にあてられていますか。

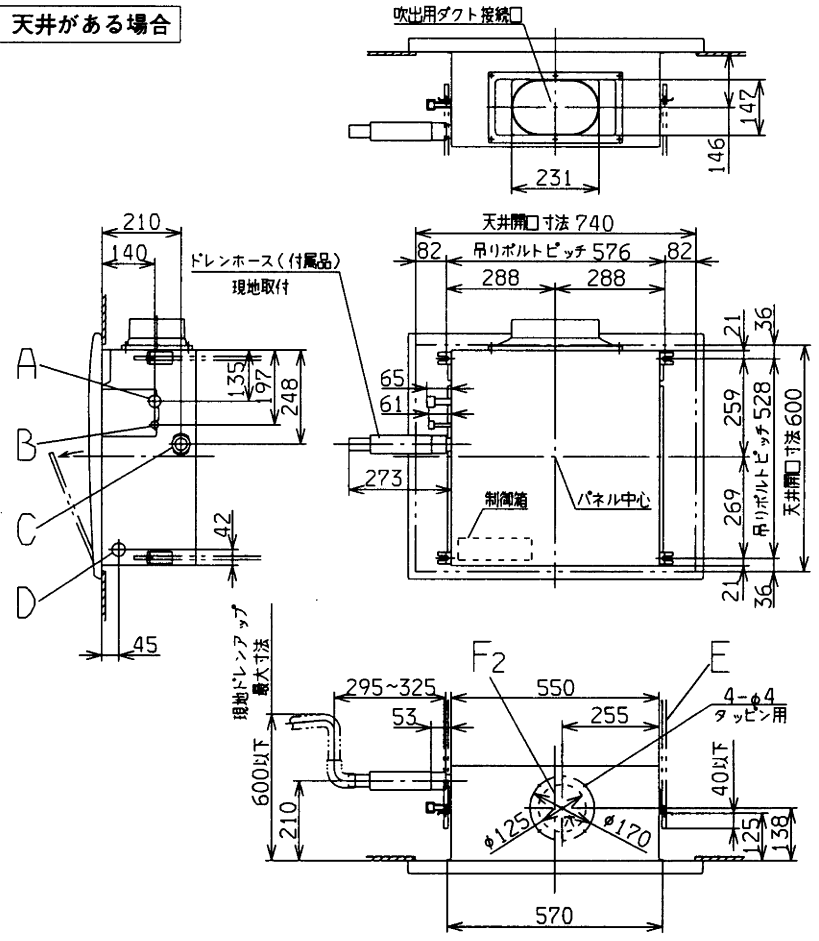
機種・電源仕様
 確認してください
 配管・配線・小物部品

付 属 品	〈付属品〉 (ユニット内に付属しております。)			
	フレアナット部断熱用			
1	パイプカバー	1個	ガス管用	
2	パイプカバー	1個	液管用	
3	バンド	4個	パイプカバー用	
ドレン配管用				
1	パイプカバー	2個	ドレンソケット用	
2	ドレンホース	1個		
3	ホースクランプ	1個	ドレンホース用	

3 吊り込み

- 吊りボルトは、M10またはW3/8を4本使用し、1本あたり50kgfの引き抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
- 吊りボルト長さは、天井面より85mm以上としてください。

A. 天井がある場合



1. 所定の位置（576×528）に吊りボルト（現地手配）を設置してください。
2. ユニット下面と天井面が一致するようにユニット高さを調節してください。（吹出し口部分は天井裏に入ります。）
 天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、エアコン本体が上方に5mm以下です。

FDR

天埋カセテリア形 4-2/14

注意 エアコン本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。

- 透明ホースに水をいれたものを使用してユニット水平度を確認してください。水平度がでない場合水漏れ、フロートスイッチの誤動作等の原因になります。(ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)
- 上記確認後、ユニットを固定してください。

B. 天井後貼りの場合

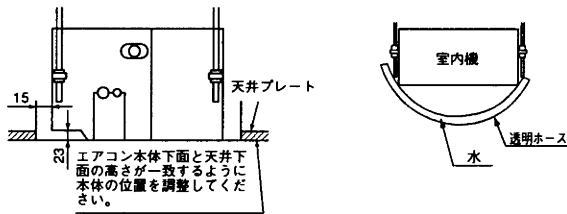
- 所定の位置(576×528)に吊りボルト(現地手配)を設置してください。
 - ユニット下面と天井面が一致するようにユニット高さを調節してください。(吹き出し口部分は天井裏に入ります。)
- 天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、エアコン本体が上方に5mm以下です。

注意 エアコン本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。

- 据付高さや水平度を確認してください。
- 上記確認後、ユニットを固定してください。

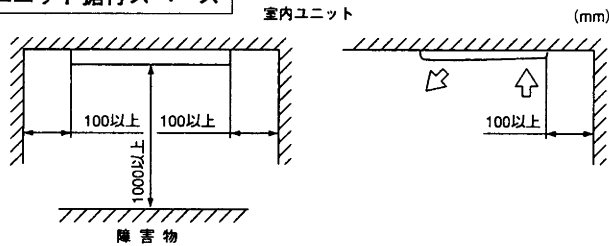
お願い 吊りボルトが1.3mを越える場合は、吊りボルトに筋交い等を行い、補強をしてください。

[システム天井以外の場合]



②室内ユニットの据付場所の選定

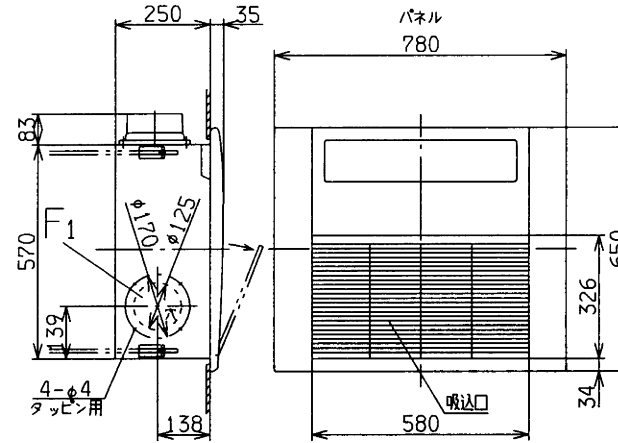
室内ユニット据付スペース



- 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分行きわたる所。
 - 据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
 - 直射日光のあたらない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度多塵気の状態では運転すると水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用される可能性がある場合には、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取り付けてください。
- 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

記号	内 容
A	冷媒ガス側配管 φ12.7(フレア)
B	冷媒液側配管 φ6.35(フレア)
C	ドレン配管 VP25注(2)
D	電源取入口 φ30
E	吊りボルト M10
F1.2	O A 取入口 ノックアウト



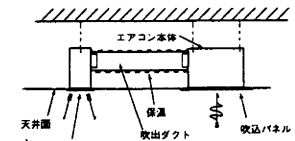
④ダクト工事

お願い 風量、機外静圧の計算を実施しダクトの長さ、形状、吹出口を選定してください。

注意 機外静圧は、30Pa以上にならないようご注意ください。ユニットが結露し、天井・家財を濡らすおそれがあります。

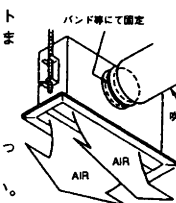
①吹出しダクト

- φ200円形ダクトを使用してください。
- ダクトは、最短長さとなる様施工してください。
- 曲がりは極力少なくしてください。(曲げRは極力大きくしてください。)
- 本体吹出口ダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。
- 露つき防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクトの使用を推奨いたします。(別売品1m、2m、4mがあります。)
- 天井貼付前にダクト工事を実施してください。



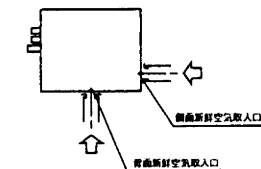
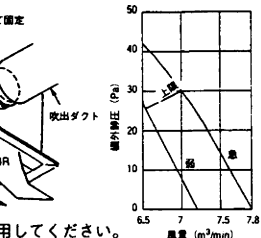
②専用吹出口

- ダクト接続はφ200円形ダクト専用です。
- 専用吹出口の取付及びダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
- ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行ってください。



③給気ダクトの接続

- 新鮮空気取入は、背面又は側面のどちらか工事の用意な方の取入口を使用してください。
- ダクト接続は、別売品の給気用ダクトフランジ(φ125丸型ダクト接続用)を利用し、φ125丸型ダクトを接続してください。(バンド締め)
- ダクトは結露防止のため、保温してください。



⑤冷媒配管時の注意事項

フレアナット締付トルク

φ 6.35 : 14~ 18(N・m), (1.4~1.8kg・m) φ 9.52 : 34~ 42(N・m), (3.4~4.2kg・m)
 φ 12.7 : 49~ 61(N・m), (4.9~6.1kg・m) φ 15.88 : 68~ 82(N・m), (6.8~8.2kg・m)
 φ 19.05 : 100~120(N・m), (10~12kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水もれます。

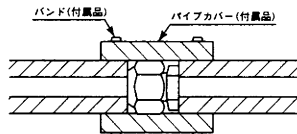
●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスバナで2丁掛けて外してください。

●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スバナ掛けてしっかりと締め付けてください。

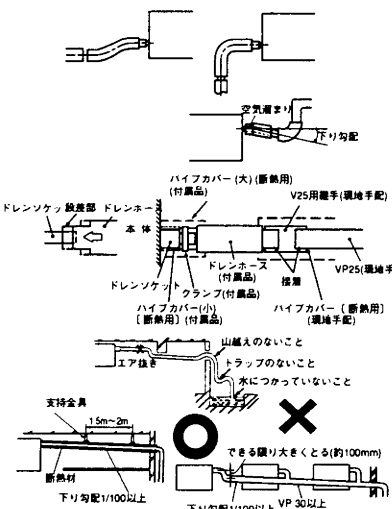
●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。

(材質) リン脱酸銅鍍目無銅管 (C1220T, JIS H3300)

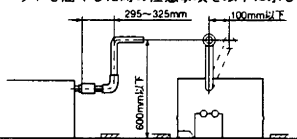
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。



⑥ドレン配管



ドレンヘッドを高くした時の注意事項を以下に示します。



すきまのないように巻いてください。(パイプカバーは形状に合わせて切断してください。)

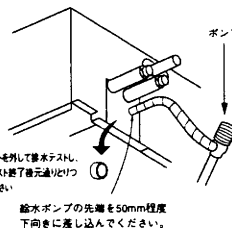
- 室内にある硬質塩ビパイプ
- ドレン配管の出口高さは、天井面より60cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、左図の寸法内で処理願います。
- ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

- 付属のドレンホースとVP25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。
- ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微小なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っばって使用された場合、破損し、水もれに至る場合があります。
- ドレン配管に空気が溜るため左図のような下り勾配を設けないでください。停止時の異常音発生の原因となります。
- 接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキシ部に力が加わった場合、フレキシ部が破損する恐れがあります。
- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般用VP-25を使用してください。
- 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクラップで確実に締めてください。(接着剤使用禁止)
- ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP25用継手(現地手配)を接着・接続してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/50~1/100)とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。
- 複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。
 - ・ドレンソケット部

排水テスト

(電気工終了後に排水テストを実施してください。)

- 試験運転時に排水が確実にこなわれていることと、接続部からの水もれのないことを確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。



△注意

1. 配管貫通部カバーのグロメットを外し、給水ポンプなどを利用して約1000ccほど注入してください。
2. ドレン排水しているか排水口部(透明部分)でご確認ください。
3. 排水テスト後はドレンプラグを外して水抜きを行ってください。水抜き確認後はドレンプラグを元通りはめ込んでください。
 - ※ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。
4. 排水テスト後は、必ずクロメットを元通りはめこんでください。
5. 排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。

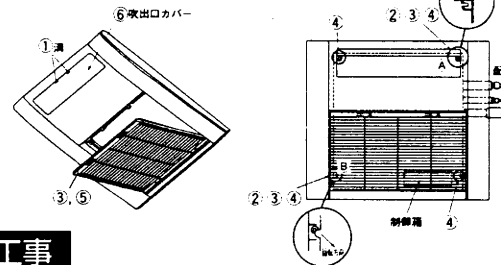
ドレンポンプ強制運転方法

ドレンポンプの運転がリモコン操作でも可能です。運転操作方法は、「電気配線工事説明書」の⑥ドレンポンプ運転操作をご覧ください。



⑦パネル取付

- ① パネル吹出し口カバーの溝に、マイナスドライバー等を入れて、カバーをパネルから取り外してください。
- ② パネル付属の吊りボルト4本のうち、2本を配管側とその対角に5mm弱ねじ込みます(●印)。
- ③ 吸込みグリルを開け、パネルを2本の吊りボルトに引っ掛け、仮止めてください。仮止めは、先にA側のボルトにパネルを引っ掛け、回転させながらB側を引っ掛けます。
- ④ 仮止めた吊りボルト及び残りの吊りボルト2本をしめつけてください。
- ⑤ 吸込みグリルを閉めてください。
- ⑥ 吹出し口カバーをパネル下側から押し込み、元通りはめ込んでください。吹出し口カバーは、確実にはめこみ、落下しないことを確認してください。



⑧電気配線工事

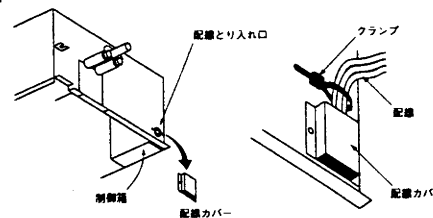
電気配線工事については、室内ユニット付属の電気配線工事説明書をご覧ください。電気配線接続は、下記の要領に従ってください。

電気配線接続

電気配線を本体に接続する時は、配線カバーを一旦外して、配線を挿入してください。配線後は、元どりに配線カバーを取付けてください。配線は、配線カバーの上方より取り出し、クラップで結束してください。

△注意

配線カバーを取付けないと、コントロールBOX内に結露する恐れがあります。



MEMO

セゾンマルチシリーズ 据付説明書

FDRP 45HKXD4 ~ 140HKXD4

PJR012D020B

FDR

〈お願い事項〉

- 取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。
- 長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご指導ください。
電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

工事完了後、これだけは再チェック願います。		
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吸出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

お知らせ

本機と別売パネル(サイレントパネル又はキャンバスパネル)との組合せにより、2タイプの据付が可能です。

適用機種	マルチ形	45・56H	71・90H	112・140H
サイレントパネル		R-PNLS-26W	R-PNLS-36W	R-PNLS-46W
キャンバスパネル		R-PNLC-26W	R-PNLC-36W	R-PNLC-46W

① 据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
- 工事計画にあつておられますか。




機種・電源仕様

確認してください




配管・配線・小物部品

付属品

① ドレン配管用

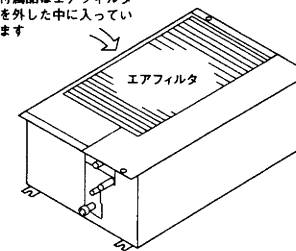
1	パイプカバー		2個	ドレンソケット用
2	ドレンホース		1個	
3	ホースクランプ		1個	ドレンホース用

② フレアナット部断熱用

1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	

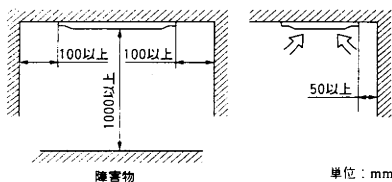
付属品収納場所(梱包時)

付属品はエアフィルタを外した中に入っています



② 室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース



単位：mm

お願い

1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますのでサーキュレータの併設をご指導ください。
 - 室外への配管、配線のしやすい所。
 - ドレン排水が完全にできる所。
 - 据付部の天井が強固である所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら、板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
3. 天井裏高さが下記の高さを有する所。

	45~90H	112・140H
サイレントパネルとの組合せ	365mm	416mm
キャンバスパネルとの組合せ	459mm	510mm

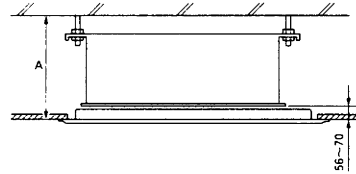
高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等、結露に対する配慮をしてください。

本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認されておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用される可能性のある場合には、ユニット本体のすべての配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取り付けてください。

③ 天井裏への吊り込み準備

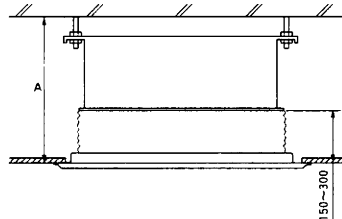
吊り込みの 패턴の選定

据付場所の状態によりパターンを決定してください。
 <サイレントパネルとの組合せ>



	A
45~90H	365mm以上
112H・140H	416mm以上

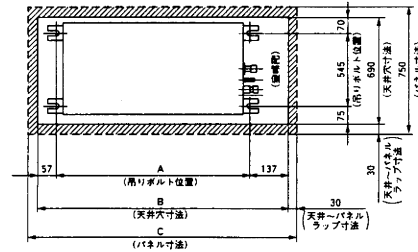
<キャンバスパネルとの組合せ>



	A
45~90H	459mm以上
112H・140H	510mm以上

天井穴及び吊りボルト位置

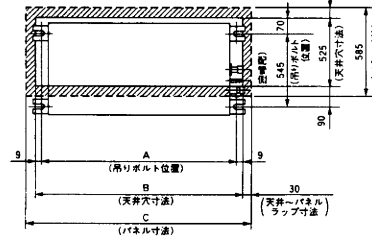
<サイレントパネルとの組合せ>



【単位：mm】

機種	記号	A	B	C
	45-56H	786	980	1040
	71H-90H	986	1180	1240
	112H-140H	1406	1600	1660

<キャンバスパネルとの組合せ>



【単位：mm】

機種	記号	A	B	C
	45-56H	786	804	864
	71H-90H	986	1004	1064
	112H-140H	1406	1424	1484

警告

- 据え付けは重量に十分に耐える所に確実に行ってください。
- 強度不足や取り付けが不完全な場合には、ユニットの落下によりケガの原因になります。

④ ユニットの搬入、据付

搬入



(室内側)

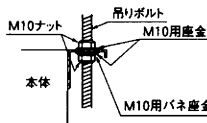
お願い

- 搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングまたは、ユニットを傷つけないよう当て板をしてロープで吊り上げてください。
- 解梱後ユニットを置く場合は必ずユニット床面側を上にして置いてください。

据付

<吊り込み>

- ユニットを吊り込んでください。



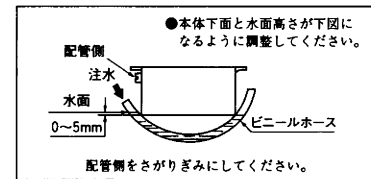
- 本体を据え付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



水平度の調整

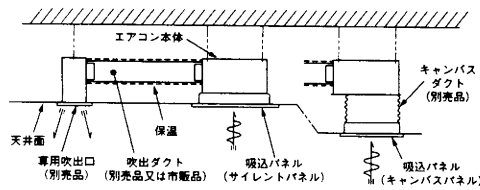
お願い

- 水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



- 水平度がでない場合、フロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

⑤ ダクト工事



お願い

- 曲りは極力少なくしてください。(曲げRは極力大きくしてください。)



お願い

- 風量、機外静圧の計算を実施しダクトの長さ、形状、吹出口を選定してください。算出方法は、技術資料を参考にしてください。

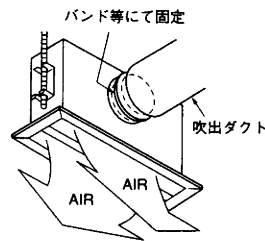
① 吹出ダクト

- φ200円形ダクトにより、下表に示すスポット数で使用してください。

	45-56H	71H-90H	112H-140H
スポット数	2	3又は2	4又は3

- 各スポット間のダクト長さの差は、2対1以内としてください。
- ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。

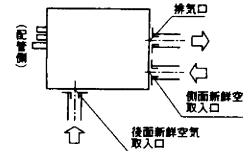
② 専用吹出口



- 本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。
- 露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクトの使用を推奨いたします。(別売品 1m、2m、4mがあります。)
- 天井貼付前にダクト工事を実施してください。

- ダクト接続は、φ200円形ダクト専用です。
- 専用吹出口の取付及びダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
- ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行ってください。

③ 給・排気ダクトの接続



④ 新鮮空気取入

- 後面又は、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。
- 同時給排気を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。(側面は使用不可)

⑤ 排気 (必ず給気を併用してください。)

- 側面排気口を使用してください。

⑥ ダクト接続

- 別売品の給排気用ダクトフランジ (φ125丸形ダクト接続用) を利用し、φ125丸形ダクトを接続してください (バンド締め)。
- ダクトは結露防止のため、保温してください。

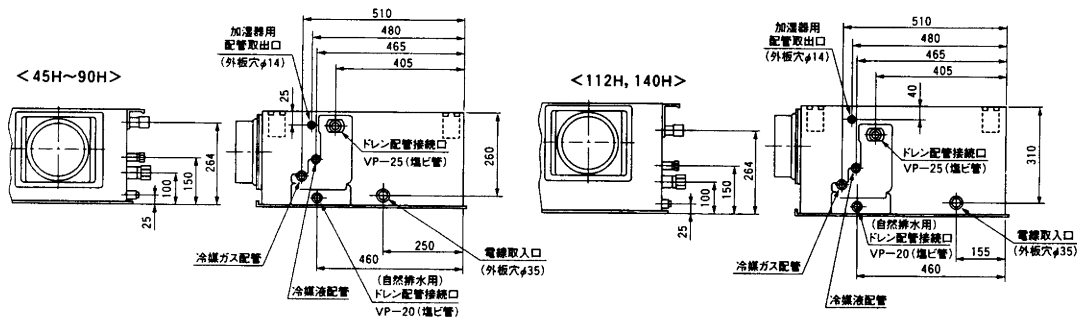
ご案内

4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれかを塞いでください。

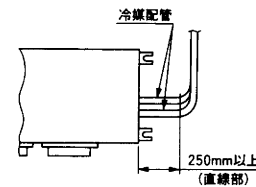
注：2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。

⑥ 冷媒配管 は別紙の冷媒配管説明書をご覧ください。

配管位置



配管工事



お願い

冷媒配管工事は、上図のように直線部を250mm以上とって行ってください。(ドレンポンプのサービスに必要です。)

冷媒配管時の注意事項

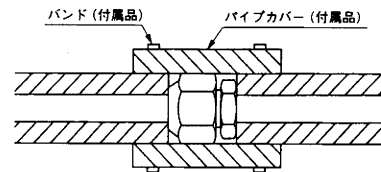
フレアナット締付トルク

- φ 6.35 : 14~ 18(N・m), (1.4~1.8kg・m)
- φ 9.52 : 34~ 42(N・m), (3.4~4.2kg・m)
- φ 12.7 : 49~ 61(N・m), (4.9~6.1kg・m)
- φ 15.88 : 68~ 82(N・m), (6.8~8.2kg・m)
- φ 19.05 : 100~120(N・m), (10~12kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し、水漏れします。

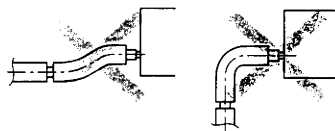
- ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません)
- フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
- 配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
(材質) リン酸銅無鉛鋼管 (C1220T, JIS H3300)
- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。



⑦ ドレン配管

工事要領 (ツイン機、トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。)

- 付属のドレンホースとVP-25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。
- ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げて使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。



- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般VP-25を使用してください。
- 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。

＜接着剤使用不可＞

- ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP-25用継手(現地手配)を接着・接続し、この継手にVP-25(現地手配)を接着・接続してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/50~1/100)とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。
- ユニットから出たドレン配管を下り勾配としないでください。エアが溜りユニット停止時の音の発生原因となります。
- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。

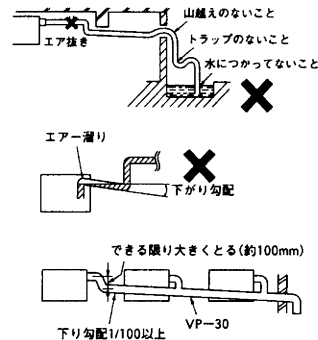
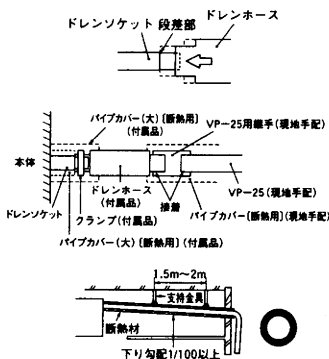
- 結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2ヶ所は確実に断熱してください。

▶ドレンソケット部

排水テスト実施後、パイプカバー(小:付属品)をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー(大:付属品)にてパイプカバー(小)、クランプ及びドレンホースの一部を覆い、テープによりすきまのないように巻いてください。

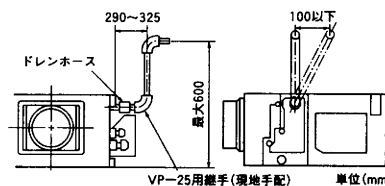
▶室内にある硬質塩ビパイプ

- 室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管は、イオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。



★ドレンヘッドを高くしたい場合

- ドレン配管の出口高さは、サイレントパネルの場合は、天井面より65cm、キャンバスパネルの場合はユニット下面より60cmまで高くすることができますので、天井内に障害物等がある場合にエルゴ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、下図の寸法内で処理願います。



その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

排水テスト

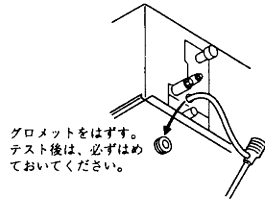
○配管施工後、ドレンがスムーズに流れるか確認してください。

●電気工事が終了している場合

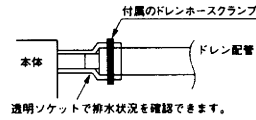
1) 下図要領にて約1000c.c.の水を入れてください。

注水ホースを20mm~30mm位差し込んで注水してください。

(注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。)



2) 冷房運転をしながら排水をチェックしてください。

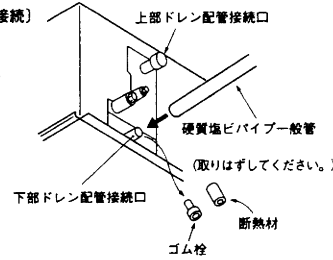


●電気工事が終了していない場合、配水管つなぎ込み部に凸形継手を接続し、注水口を設けて配管系統の漏れ及び排水状況の確認をしてください。

○排水テスト後、本体部まで配管の断熱をしてください。

下部ドレン配管工事要領 (配管接続)

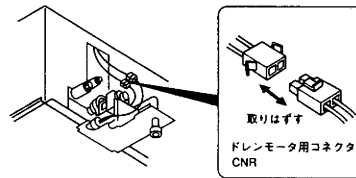
ドレン配管に下り勾配(1/50~1/100)が可能な場合右図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



〈ドレンモータ用のコネクタの取り外し〉

下図に示すようにドレンモータ用コネクタCNRを取り外してください。

(注:コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。)



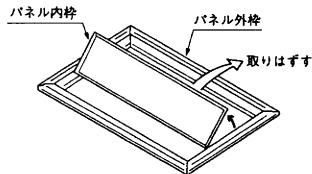
⑧ パネル取付

サイレントパネルの場合

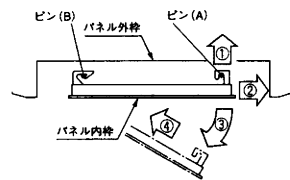
〈付属品〉

丸小ねじ (M5×35) 4個 パネル取付用

①パネル内枠を外してください。

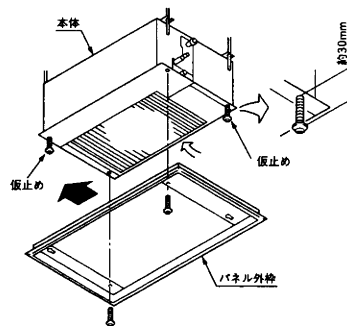


〈パネル内枠の外し方〉



③矢印①→②順でピン(A)より外してください。
④矢印③のようにすこし開き矢印④の方向へ移動させてピン(B)より外してください。

②パネル外枠を本体に取付けてください。



④パネル取付ねじ(パネル付属品)4本のうち2本を図のように仮止めしてください。

⑤パネル外枠を仮止めたねじに引っかけて、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めしてください。

(注)パネル外枠の装着には方向性があります。

③仮止めたねじ及び残りのねじ(2本)を締付けてください。

④パネル内枠を①項で外す逆の要領で取付けてください。

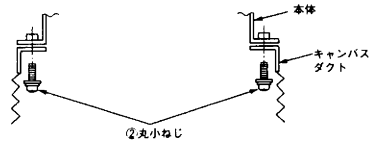
キャンバスパネルの場合

注) キャンバスパネルの取付には
キャンバスダクト (別売品)
が必要です。

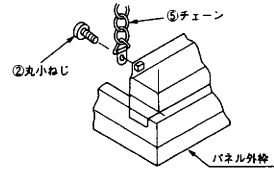
＜付属品＞

①	丸小ねじ (M4×16)	4個	パネル固定
②	丸小ねじ (M5×16)	8個	キャンバスダクト固定 チェーン固定
③	丸小ねじ (M5×25)	4個	チェーン固定
④	ホルダー	4個	
⑤	チェーン	4個	

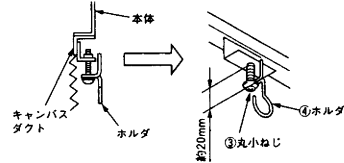
①キャンバスダクト (別売品) を本体に取付けてください。
(4ヶ所)



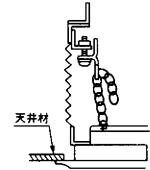
②パネル内枠を上項に示す、サイレントパネルの場合と
同じ要領で取外してください。
③パネル外枠にチェーンを取付けてください。(4ヶ所)



④パネル外枠を取付けてください。
⑤ホルダーを下図に示すように仮止めしてください。

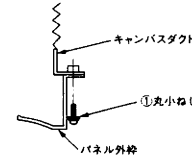


⑥パネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。



注) チェーンを引っかける
際は、パネル外枠を天
井材にできるだけ密着
させた状態でチェーン
にたるみのないよう
に行ってください。

⑦パネル外枠を天井材と密着するまで⑥項の③丸小ねじに
より吊り上げてください。
⑧キャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。



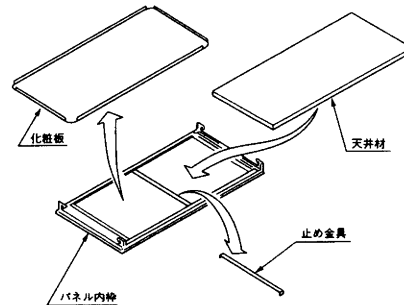
⑨パネル内枠を上項に示すサイレントパネルの場合と同じ
要領で取付けてください。

天井材の取付け

パネル内枠には天井材を取付けることができます。
(板厚 最大15mm)

天井材サイズ

	パネル形式	天井材
キャンバスパネル	R-PNLC-26W	756×330
	R-PNLC-36W	956×330
	R-PNLC-46W	1376×330
サイレントパネル	R-PNLS-26W	932×495
	R-PNLS-36W	1132×495
	R-PNLS-46W	1552×495



①止め金を外してください。
②化粧板を外し、天井材を取付けてください。
③はじめに外した止め金具を天井材を押さえ込んで取付
けてください。
注) 天井材取付時、化粧板は不要になります。

MEMO

セゾンマルチシリーズ 電気配線工事説明書

FDRP 22HKXD4 ~ 140HKXD4

PSB012D810

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

警告

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- 電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。

注意

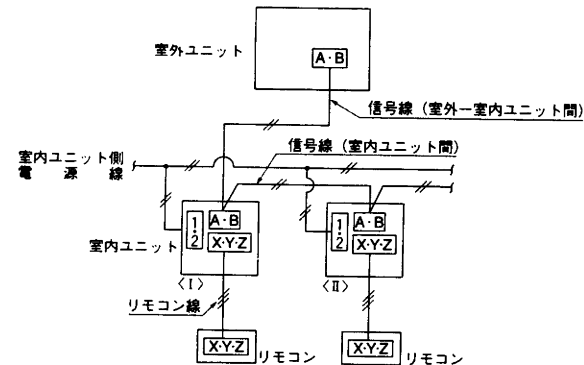
- 8mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- 信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

- 1) 電線は銅線以外のものを使用しないでください。
- 2) 電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
- 3) 電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- 4) 各仕様値の計算は、組合せ可能最大ケースにて計算してあります。組合せ機種・台数等にて、値は若干異なりますが（低下傾向）微少のため、同値としてください。
- 5) 同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
- 6) 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図

〔室外・室内ユニット接続要領〕



電源仕様

		室内ユニット用	
配線用遮断器 定格電流 (A)	室内ユニット 合計電流 (A)	10A未満	20A
		10A以上15A未満	30A
		15A以上22A未満	40A
		22A以上27A未満	50A
漏電遮断器 定格電流 (A)	室内ユニット 合計電流 (A)	10A未満	20A, 30mA, 0.1sec以下
		10A以上15A未満	30A, 30mA, 0.1sec以下
		15A以上22A未満	40A, 30mA, 0.1sec以下
		22A以上27A未満	50A, 100mA, 0.1sec以下

配線仕様

	電源配線	室内ユニット間電源配線	信号線	
	室内側 mm ² ×本数	系統間 mm ² ×本数	室外～室内(1)	室内(1)～(2)～ mm ² ×本数
室内 ユニット 合計電流 (A)	10A未満	2.0×2本(こう長23m)	0.75	0.75
	10A以上15A未満	3.5×2本(こう長23m)		
	15A以上22A未満	5.0×2本(こう長23m)	1×2本	1×2本
	22A以上27A未満	8.0×2本(こう長23m)	2.0	2.0

- 注(1)配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。
 (2)室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なされる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
 (3)配線こう長は、電圧降下を2%とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチ (224H, 280H, 560H) の場合

分流コントローラの配線

- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

- (1) 自動アドレス設定 (2) 手動アドレス設定 (3) リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

なお、(3) リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線及び機能

リモコン リモコンは別売です。

リモコンの据付

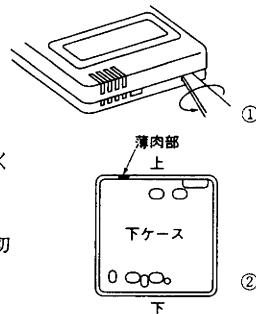
お願い 次の位置は避けてください。

- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

- ①リモコンケースをはずしてください。
 - リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
 - リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。



- ④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

端子：①赤線、②白線、③黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。

各配線の皮むき長さは下記の通りです。

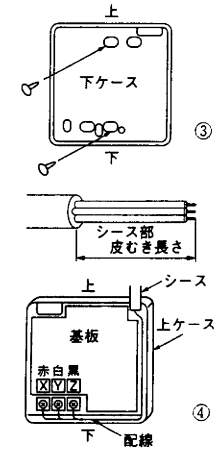
- 黒：195mm
- 白：205mm
- 赤：215mm

- ⑤上ケースを元通りに取り付けてください。

- ⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。

- ⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

【機能の設定】の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

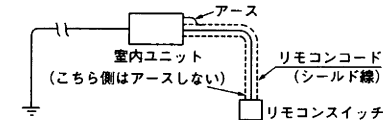
コードは必ずシールド線を使用してください。

- 全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C(京阪電線)〕

注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

- 100～200m以内……0.5mm²×3心
- 300m以内……0.75mm²×3心
- 400m以内……1.25mm²×3心
- 600m以内……2.0mm²×3心

- シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



埋込取付

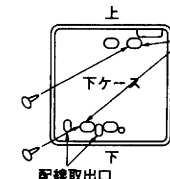
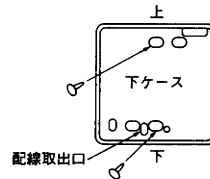
- ①JISボックスとリモコンコード(延長の場合はシールド線を必ず使用)をあらかじめ埋込んでおきます。

【使用可能JISボックス】

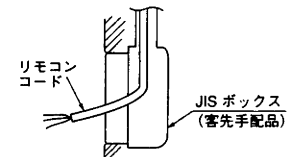
- JIS C 8336 1個用スイッチボックス
- 2個用スイッチボックス

1個用スイッチボックスの場合

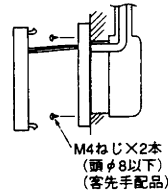
2個用スイッチボックスの場合



ねじ取付部の薄肉部分をナイフ等で、切りとってからねじをしめてください。



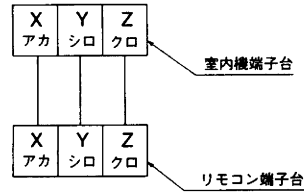
- ②リモコンの上ケースを外してください。
- ③下ケースをM4ねじ2本(頭φ8以下)を用意してJISボックスに取付けてください。
- ④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
- ⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- ⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。



電源投入後、リモコンの「エアコンNo」を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲ ▼ ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

リモコンと室内の配線

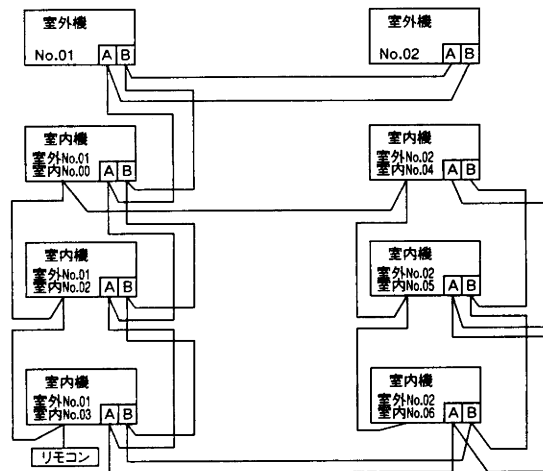
- リモコン配線は極性があります。必ず同一端子台No.同士接続してください。



リモコン複数台制御

配線要領

- グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。(3本)
- 室内ユニットリモコン用端子台 X Y Z に、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
- 配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引廻しに耐えるもの)
- 渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
- 室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
- 室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
- 下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
- 1つのリモートコントローラで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。
- 室内基板上のロータリースイッチSW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。



機能の設定

設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっており、ラクリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

本機の設定可能項目と工場出荷時の設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	グリル昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	○
		自動運転無効	
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切替	運転切替有効	○
		運転切替禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	○
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	○
		風向調整禁止	
08	タイマー	タイマー有効	○
		タイマー禁止	
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○
		リモコンセンサ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ファン速調	ファン3速	○
		ファン2速	
		ファン1速	
14	冷凍/ヒートポン	ヒートポン	○
		冷凍	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	エラー表示設定	エラー表示有り	○
		エラー表示無し	
17	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	○
		ルーバフリー停止	

(2) 室内機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
03	フィルターサイン設定	表示しない	
		180時間後	○
		600時間後	
		1000時間後	
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	○
		ルーバフリー停止	
05	外部入力切替	レベル入力	○
		ハルス入力	
06	運転許可/禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正+3℃	
08	暖房ファン制御	停止一弱風	○
		弱風	
09	凍結防止温度	2.5℃	○
		1℃	
10	凍結防止制御	ファン制御有効	○
		ファン制御無効	
11	電気集塵機	ファン制御無効	○
		ファン制御有効	
12	加湿器制御	ドレンモータ非連動	○
		ドレンモータ連動	

(1) リモコン機能の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、(2) 室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

④ 制御の切換

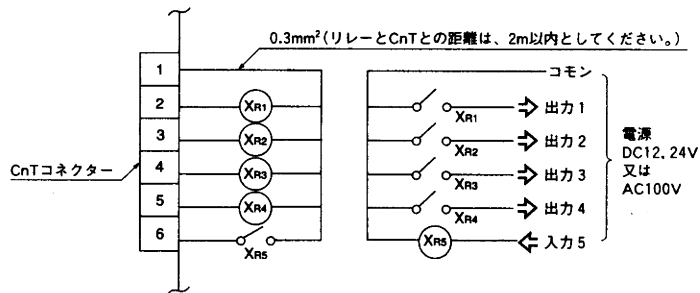
□ 囲みが工場出荷時の設定

室内機の制御内容を下記方法にて切換可能です。

SW5-1	OFF	遠方発停入力 (CnT) をレベル入力		
	ON	遠方発停入力 (CnT) をパルス入力		
SW5-2	OFF	—		
	ON	暖房時設定温度+3℃		
SW5-3	OFF	加湿器残留運転 無効		
	ON	加湿器残留運転 有効		
SW5-4	OFF	オートスイング 有効		
	ON	オートスイング 無効		
SW9-1	オートリフトパネルの昇降長さの設定			
SW9-2	オートリフトパネルの昇降長さの設定			
SW7-1	ON	—		
	OFF	高天井制御 (ファン回転数アップ)		
SW7-3	暖房サーモOFFファン制御の切換 0:OFF 1:ON			
	記号	設定1	設定2	設定3
	SW7-3	1	1	0
	SW7-4	1	0	1
SW7-4	暖房サーモOFFファン制御 間欠運転 Lo運転 ファン停止			
J5	短絡	—		
	開放	運転許可禁止		
J8	短絡	フィルタサイン有効		
	開放	フィルタサイン無効 (検知しない)		
J9	短絡	—		
	開放	オートスイング4位置制御無効 (フリー位置制御)		
J10	リモコン風量表示の切換 0:開放 1:短絡			
	記号	設定1	設定2	設定3
	J10	1	1	0
	J11	1	0	1
	リモコン表示風量切替設定	3速 (弱/急/強)	1速 (表示無し)	2速 (弱/急)
J12	短絡	—		
	開放	加湿器ドレン運動		

注) 機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能



- Xr1~4はDC12Vリレー (オムロンLY2F相当品)
- Xr5は、DC12, 24V又はAC100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクタ (現地側) メーカー、形式

コネクタ	モレックス	5264-06
端子	モレックス	5263T

●機能

出力1	エアコン運転出力 (エアコンON時Xr1=ON)	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力 (サーモON時Xr3=ON)	
出力4	エアコン点検出力 (エアコン点検時Xr4=ON)	
入力5	出荷時	Xr5 OFF⇒ON エアコンON Xr5 ON⇒OFF エアコンOFF
	現地切換 (SW5のNo.1をON)	Xr5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

- 冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ (別売品) の据付説明書をご覧ください。
- 遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。

- ドレンポンプ強制運転の開始
 - 「試運転」ボタンを3秒以上押します。
「項目◆で選択」→「[セット]で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
 - 「冷房試運転▼」の表示の時に、▼ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
 - 「セット」ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示: 「ドレンポンプ運転」→「[セット]で停止」
- ドレンポンプ運転の解除
 - 「セット」ボタン又は、「運転/停止」ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

⑦ 試運転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

- 電源電圧は本体表示と同じですか。
- 室外機側でアース工事はされていますか。
- 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
- 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。